

概要

Force.com Web サービス API を使用すると、SOAP ベースの Web サービスをサポートする外部システムから Force.com 内のレコードを作成、取得、更新、削除できるようになります。たとえば、Java、.NET、PHP など開発されたクライアントアプリケーションでこうした操作を実行できます。Force.com Web サービス API には 20 種類以上の API コールが用意されており、パスワードの管理、検索の実行、オブジェクトのメタデータ情報の取得なども行えます。

はじめに

[設定]、[開発者]、[API]の順にクリックし、自分の開発環境に適したWSDLを生成します。Enterprise WSDL は組織のデータを強い型付けで表現します。一方、Partner WSDL のほうは型付けが弱く、複数の組織にまたがって動作する汎用的なクライアントを記述するのに適しています。

基本となる API コール

ログイン操作、クエリの実行、データの作成や削除などで使用される基本的な API コールです。

login()	ログインを行い、クライアントセッションを開始します。
logout()	ログインしているユーザのセッションを終了します。
invalidateSessions()	1 つまたは複数のセッションを終了します。
create()	1 つまたは複数のレコードを個別に作成します。
delete()	1 つまたは複数のレコードを個別に削除します。
update()	1 つまたは複数の既存レコードを更新します。
upsert()	新規レコードの作成と既存レコードの更新を実行します (カスタム項目で照合を行い、既存レコードが存在するかどうかを確認します)。
undelete()	ごみ箱からレコードを復元します。
emptyRecycleBin()	ごみ箱からレコードを削除し、ごみ箱を空にします。
getDeleted()	特定の期間内に削除されたレコードの ID を取得します。
getUpdated()	特定の期間内に更新されたレコードの ID を取得します。
convertLead()	リードを取引先と取引先責任者に変換します。オプションで商談への変換も指定できます。
merge()	同じオブジェクトに属するレコードをマージします。
process()	承認申請において承認プロセスインスタンスの配列を送信します。または、承認、却下、削除のいずれかの結果を返すために承認プロセスインスタンスの配列を処理します。
query()	指定されたオブジェクトに対してクエリを実行し、検索条件に一致するデータを返します。
queryAll()	query() と同様の処理を行います。削除されたアイテムやアーカイブされたアイテムも対象になります。
queryMore()	クエリから次のバッチのレコードを取得します。
retrieve()	指定されたレコード ID にもとづいて 1 つまたは複数のレコードを取得します。
search()	組織のデータに対してテキスト検索を実行します。

記述用の API コール (describe)

オブジェクトの情報や、組織に関するさまざまな情報を動的に取得できます。

describeGlobal()	組織のデータで利用できるオブジェクトのリストを取得します。
describeLayout()	指定されたオブジェクトのページレイアウトに関するメタデータを取得します。
describeSObject()	これまで使われていたコールですが現在は使用しません。代わりに describeSObjects() を使用します。
describeSObjects()	指定されたオブジェクトのメタデータ (項目のリストとオブジェクトのプロパティ) を取得します。
describeSoftphoneLayout()	特定の組織向けに作成されたソフトフォンのレイアウトに関する情報を取得します。
describeTabs()	特定のユーザ向けに構成されたアプリケーションとタブに関する情報を取得します。

ユーティリティ API コール

ユーザ情報の取得、電子メールの送信、パスワードのリセットなどを行えます。

getServerTimestamp()	API から現在のシステムタイムスタンプを取得します。
getUserInfo()	現在のセッションに関連付けられたユーザの個人情報を取得します。
resetPassword()	ユーザのパスワードをシステムで生成された値に変更します。
sendEmail()	電子メールメッセージをただちに送信します。
setPassword()	特定のユーザのパスワードを指定された値に設定します。

プリミティブデータ型

Force.com Web サービス API は、次に示すプリミティブデータ型を使用します。

base64	Base64 でエンコードされたバイナリデータ。
boolean	true (1)、false (0) のいずれかの値をとるブール型フィールド。
byte	ビットの集合。
date	日付の値。dateTime とは異なり、時刻の値は含みません。
dateTime	日付と時刻の値 (タイムスタンプ)。
double	倍精度値。
int	小数点以下の値を持たない数値を格納します。
string	文字列。
time	時刻の値。

項目のデータ型

上記のプリミティブデータ型のほかには、オブジェクトの項目で定義される次のようなデータ型があります。

anyType	多態性を持ち、対象となる項目の種類に応じて異なる型を表現します。
calculated	数式によって定義される項目。
combobox	列挙型値のセットを含むコンボボックスで、ユーザはリストにない値も指定できます。
currency	通貨の値。
email	電子メールアドレス。
encryptedstring	暗号化されるテキスト項目。文字、数字、記号の任意の組み合わせを暗号化フォームで格納します。
ID	プライマリキーとして使用されるオブジェクトの項目。
masterrecord	複数のレコードをマージする際に、マージ先として残されるレコードの ID (他のレコードは削除されます)。
multipicklist	複数選択型の選択リスト。ユーザが複数の値を選択できる列挙型値のセットを含みます。
percent	パーセント値。
phone	電話番号。値にアルファベットを含めることもできます。
picklist	選択リスト。単一の値を選択できる列挙型値のセットを含みます。
reference	別のオブジェクトに対する相互参照。SQL の外部キー項目に相当します。
textarea	複数行にわたるテキストを格納する項目に表示される文字列。
url	URL 値。

API エラー要素

サービス要求の処理時にエラーが発生した場合、Force.com Web サービス API では次のようなエラー要素を返します。

ApiQueryFault	問題が発生した行番号と列番号。
LoginFault	login() コール時に発生したエラー。
InvalidSObjectFault	describeSObject()、describeSObjects()、create()、update()、retrieve()、query() のいずれかのコールに含まれる無効な sObject。
InvalidFieldFault	retrieve()、query() のいずれかのコールに含まれる無効なフィールド。
MalformedQueryFault	query() コールに渡された queryString の問題。
InvalidQueryLocatorFault	queryMore() コールに渡された queryLocator の問題。
MalformedSearchFault	search() コールに渡された search の問題。
InvalidIdFault	setPassword()、resetPassword() のいずれかのコールにおいて、指定された ID が無効であることを示します。
UnexpectedErrorFault	他の API エラーには関連付けられない、予期しないエラーが発生したことを示します。

developerforce™

www.salesforce.com/jp/developer

株式会社セールスフォース・ドットコム
〒106-6139 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー39階
0120-733-257 info@jp.salesforce.com
www.salesforce.com/jp

Copyright ©2009, salesforce.com, inc. All rights reserved. Salesforce.com and the "no software" logo are registered trademarks of salesforce.com, inc., and salesforce.com owns other registered and unregistered trademarks. Other names used herein may be trademarks of their respective owners.